

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州\_2014(v.2.0)

<b>1 建物概要</b>	
建物名称	産業廃棄物焼却施設新築工事
BEE	1
BEEランク	B+
	★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.5 /5		がんばろ:
2 地球温暖化対策の推進	2.6 /5		がんばろ:
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろ:
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)	
<b>1 循環型社会への貢献</b>		スコア平均 2.5	
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮		
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.4	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 2.9
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 2.3
<自由記述>			
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>		スコア平均 2.7	
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮		
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4.3	LR2/ 1.1 節水	スコア 1
<自由記述>		<自由記述>	
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>		スコア平均 2.7	
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮		
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
<b>4 高齢社会への対応</b>		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮	主な指標		
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	0.88
<自由記述>		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	0.72
		外構緑化指数	5%
		建物緑化指数	20%

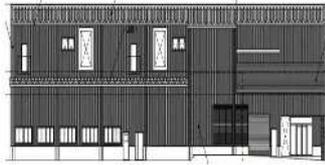
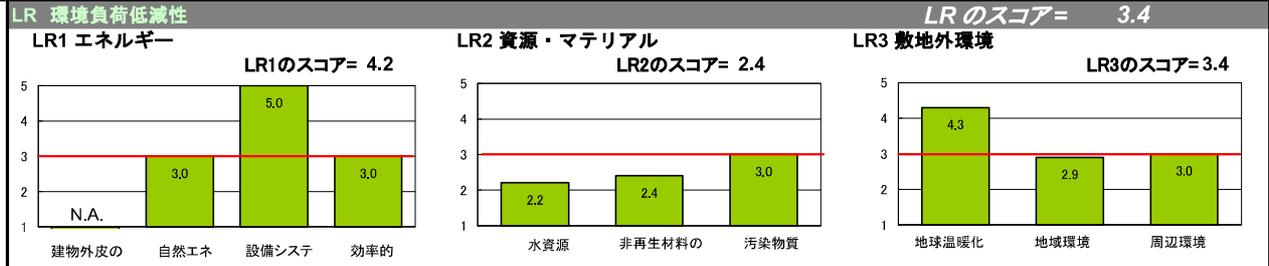
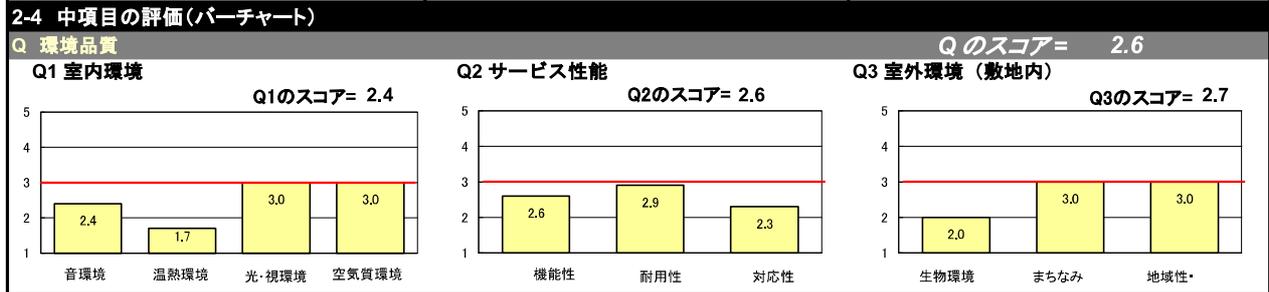
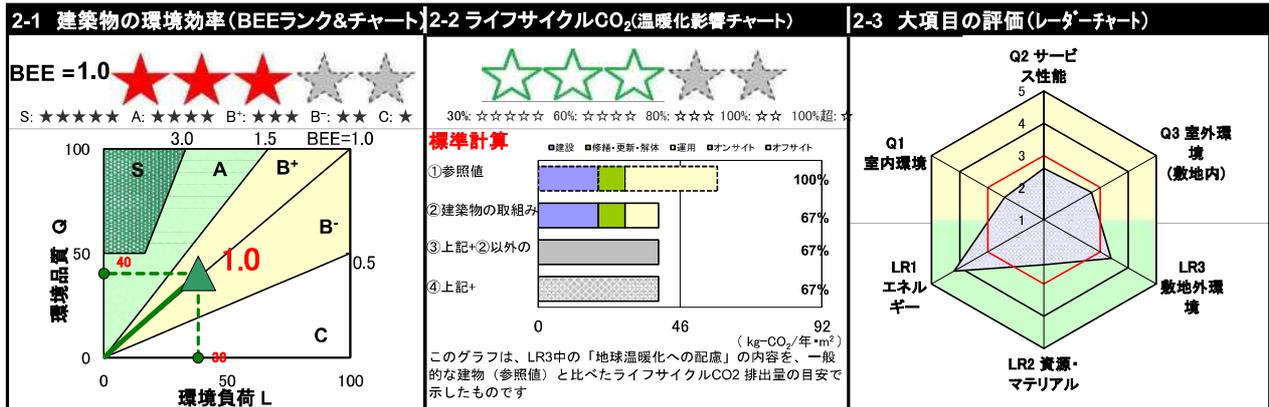
:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	産業廃棄物焼却施設新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市若松区響町一丁目	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	94 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年6月1日
敷地面積	5,175 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 松尾組 一級建築士事務所
建築面積	1,633 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,366 m <sup>2</sup>	確認者	

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
断熱等性能等級で等級4や、開口部遮音性能T-2を取得など行い、付加価値を設けた。	特に無し。	
<b>Q1 室内環境</b> 自然換気開口有効面積が居室面積の1/8以上にし、換気性能の向上努めた。	<b>Q2 サービス性能</b> 主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 植栽により、気温の上昇抑制に努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> BEI値0.6以下を予定しており、環境に配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ODP=0.01未満かつ、GWP=50未満の発泡剤を用いた。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を抑制し、地球温暖化への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**産業廃棄物焼却施設新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.30	-	-		<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.4</b>	0.15	-	-		<b>2.4</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
1.2 遮音				<b>2.6</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		Dr-45以上		1.0	0.60	1.0	-		
2 界壁遮音性能				5.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	1.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>1.7</b>	0.35	-	-		<b>1.7</b>
2.1 室温制御				<b>2.5</b>	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				1.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25	-	-		<b>3.0</b>
3.1 昼光利用				<b>4.2</b>	0.30	-	-		
1 昼光率		共用:昼光率が2.5%以上		5.0	0.60	2.0	-		
2 方位別開口				-	-	1.0	-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
3.2 グレア対策				<b>2.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光制御				2.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気環境</b>				<b>3.0</b>	0.25	-	-		<b>3.0</b>
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	-	-		
4.2 換気				<b>3.6</b>	0.30	-	-		
1 換気量		自然換気開口有効面積が居室面積の1/8以上		3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				5.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				<b>2.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				1.0	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-		<b>2.6</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.6</b>	0.40	-	-		<b>2.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.0</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				2.0	0.33	1.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		リフレッシュスペース+自動販売機等の設置		3.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.30	-	-		<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.9</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>2.3</b>	0.30	-	-	<b>2.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		1.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		1.0	0.40	2.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>2.8</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		-	0.40	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		-	0.40	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.36	<b>5.0</b>	0.63	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		-	0.30	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>		<b>1.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満、GWP=50未満	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		2.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率を 67 %	<b>4.3</b>	0.33	-	-	<b>4.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>		<b>2.6</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.33	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	-	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちがに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	